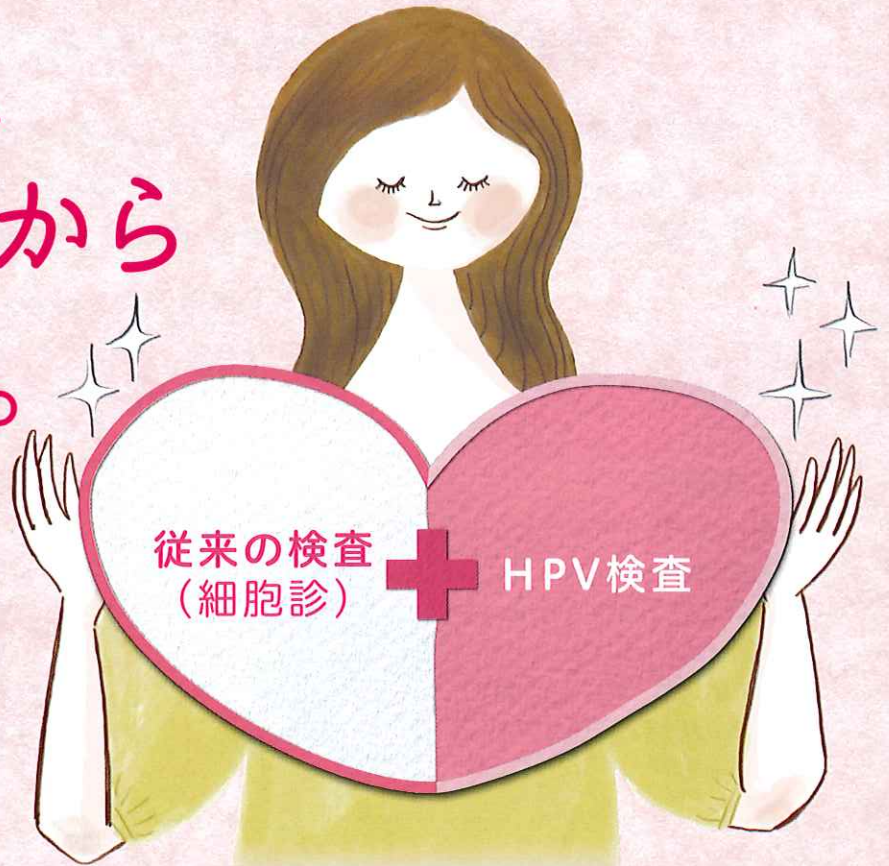


# 今のあなたと 未来のあなたを、 子宮頸がんから 守るために。

子宮頸がんの原因であるHPVは、  
性交渉の経験がある女性の約80%が  
一度は感染するといわれています。



子宮頸がん検診では、従来の検査と一緒に「**HPV検査**」を受けましょう。

## 子宮頸がんとは

HPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルスが主な原因で、誰もがかかる可能性のある病気です。治療する薬はまだありませんが、**早く発見すれば子宮を残すことができ、妊娠・出産も望めます。**

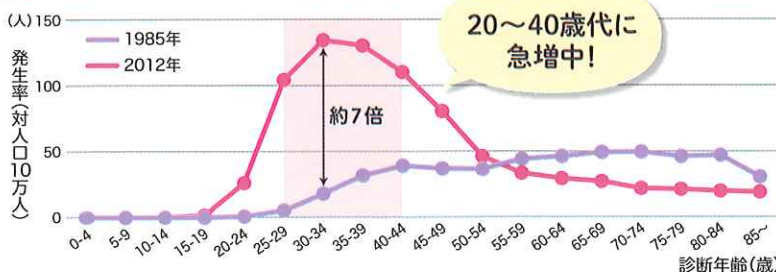
## HPVに感染すると

ほとんどの場合は免疫力によって自然に消えますが、感染している状態が長く続くと、一部は細胞が変化を起こし、子宮頸がんへと進行します。

## HPV検査とは

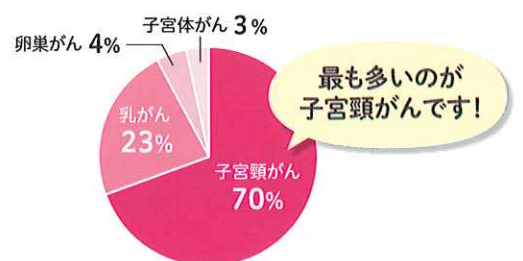
HPVに感染しているかを調べる検査です。

### 日本における年代別子宮頸がん発生率

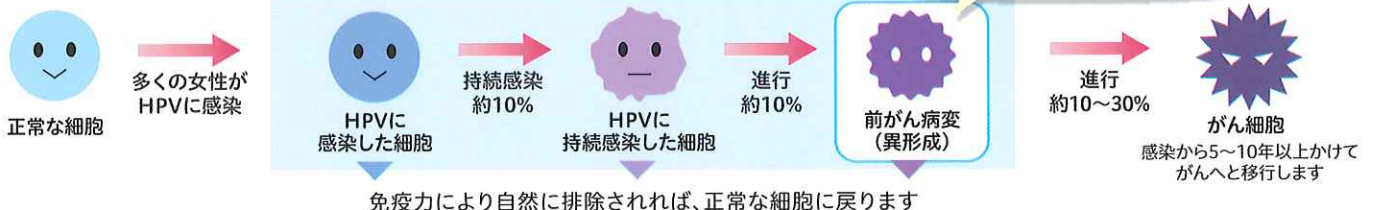


国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975年~2012年)より

### 女性特有のがん患者の比率(20~30歳代/2010年)



### 正常な細胞が子宮頸がんになるまで



感染から5~10年以上かけてがんへと移行します



# 従来の検査とHPV検査を併用する検診なら、 発病の可能性を見つけることができます。

従来の検査(細胞診)にHPV検査を追加することで、子宮頸がんの発見率がさらに上がり、  
がんになる手前の状態(前がん病変)を、ほぼ見逃すことなく発見することができます。

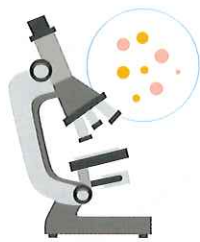
当施設では、2つの検査を1度の検体採取で行えるため、追加で細胞を採る必要はありません。

検診受付時に「HPV検査も希望」の旨をお伝えください。

2つの検査の併用で、見逃しを防ぐことができます。

## ● 細胞診

がん細胞や、がんになりそうな細胞(前がん病変)が存在しているかを調べる検査です。がんの発見には大変有効ですが、細胞診だけでは、前がん状態の20~30%の見落としがあるといわれています<sup>1-2)</sup>。



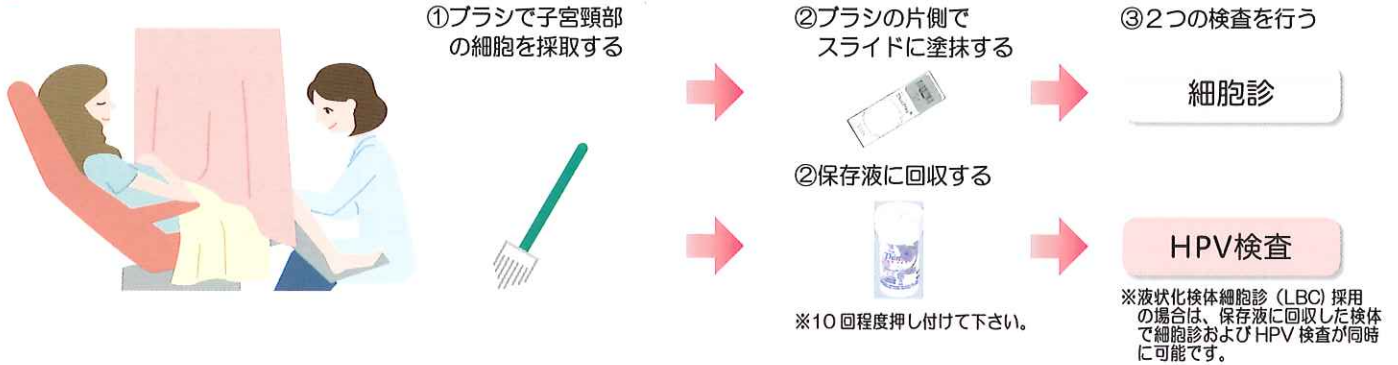
## ● HPV検査

ウイルス(HPV)への感染を調べる検査です。子宮頸がんの原因となるハイリスク型HPV14タイプのいずれかに感染しているかどうか、陽性(+)  
陰性(-)で判定します。



当施設では、一度の検体採取で、細胞診とHPV検査の両方を受けられます。

## ● 検査方法



HPV検査では、将来、子宮頸がんへ進展するリスクも知ることができます。

細胞診で異常がなく、HPV検査でHPVの感染が認められない場合、3年後に前がん状態である中等度異形成の病変が検出される可能性は非常に低くなります<sup>3)</sup>。また、HPV検査で感染が認められても、きちんと経過観察を続けることで、がんになる前に発見・治療が可能です。

【参考文献】1) Cuzick J, et al. Lancet (2003) 362:1871-1876 2) 今野良 他, 化学療法の領域(2011)27:32-334 3) Reid JL, et al. Am. J. Clin. Pathol. September (2015) 144:473-483